

2024 年度 西淀川インターナショナルコミュニティ活動報告書

目次

1. 団体概要.....	1
2. 2024 年度活動実績	2
(1) 学習支援教室.....	2
① 学習支援教室「きらきら」	2
② Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」).....	3
(2) 「たぶんか相談会」	4
①定例相談会	4
②特別相談会「たぶんか高校進学セミナー2024」	4
(3) 地域の交流行事	5
3. その他.....	5
(1) 主なイベント	5
(2) 主な見学者.....	5
(3) 講演.....	5
(4) 投稿等	5
(5) 助成金・寄付	5
(6) 主な連携	5

1. 団体概要

西淀川インターナショナルコミュニティ (Nishiyodogawa International Community、通称 NIC) は、大阪市西淀川区に暮らす外国人住民、特に外国にルーツをもつ子どもへの育成支援を、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体。

- 外国につながる子どもの学習支援教室
- 外国人住民向け生活相談会の開催
- 地域交流イベント開催

を実施している。詳細は以下を参照。

URL: <https://nishiyodoic.net>

facebook: <https://www.facebook.com/Nishiyodogawa.IC>



西淀川インターナショナルコミュニティ
Comunidad internacional de Nishiyodogawa

2. 2024 年度活動実績

前年度に引き続き、公的機関や地域での連携・支援協力を得て、子どもに焦点を当て外国人住民の方と共に活動を継続した。西淀川区役所、出来島地域の小・中学校、淀中学校区学校元気アップ協議会、大阪市教育局委員会人権・国際理解 G 第一共生支援拠点「らんまん」、西淀川こどもネット、出来島商店会等との連携、これらは活動に不可欠な協力体制であった。

当ボランティア団体の組織編成において特徴的なことは、アドバイザーに地元地域のポルトガル語やスペイン語、ネパール語、タミール語等の話者であり、ブラジル、ペルー、ネパール、スリランカ等のさまざまな文化をもつメンバーを擁していること、さらに大阪市教育局委員会人権・国際理解 G 第一共生支援拠点「らんまん」、出来島商店会、地域の留学生の日本語学校、大学の研究者等でメンバー編成されていることである。

外国人と日本人が融合しながら関わっていることが NIC の大きな特徴であり、子どもたちの居場所づくりや学習支援に関わる際、重要なキーポイントとなっている。

(1) 学習支援教室

① 学習支援教室「きらきら」

目的：外国につながる小学生対象に居場所の提供と学習支援の場を作る

実態：毎週月曜日 16:00~17:20 迄学習、終わりの会、支援者ミーティングを行った。

40 回実施、のべ 369 名の小学生が参加。登録 30 名。支援者 17 名のべ 309 名参加。

子どもたちのルーツは、ペルー、ブラジル、フィリピン、スリランカ、ネパール、ベトナム、中国、パキスタンであった。漢字や算数のドリル等、学校の宿題のサポートや教室で準備した教材プリントに取り組んだ。七夕など季節に合わせねがいごとを書く、低学年児童を中心に折り紙、お絵描き、かるた等のゲームをする、あるいは学校の勉強から、練習中のリコーダーの発表、お国紹介のスライド紹介など宿題以外のことに対応した。タブレット端末、図書類、カード、色鉛筆等を活用し、それぞれの子どもの興味関心に合わせた内容であった。

子どもたちの大半は日本生まれ、もしくは幼少期に来日しており、日本語での会話は比較的流暢であるものの、在籍学年の学習内容の理解や漢字の力が追い付いていないケースもみられる。生活面や心理面でのサポートが必要と思われる場合もあり、より丁寧な対応が求められた。また、学年相当の学力として中学校進学までの基礎学力を習得してほしいという支援者の声も根強いものがあり、特に高学年の児童へのサポートの在り方には苦心した。

支援者は、スペイン語、英語等での会話ができる、あるいは日本語指導の資格を持つ等の特色を活かして子どもや保護者との母語による意思疎通を図り、日本語力を推し測りながら対応した。また昨年度に続き大阪大学からのフィールドワーク実習参加、前年度のインターン生の継続参加があり、子どもたちはいろいろな支援者を歓迎していた。

昨年度の登録 20 名から 30 名へとこどもの数の増加に伴い、マンツーマン対応は不可能



↑ねがいごとを書く

となり、学年別席を試行した。学年別席では子どもは互いに学習内容を共有しやすく、支援者も内容を把握しやすい利点があった。また、来日後の年数の浅い日本語でのコミュニケーションが難しい子どもが同学年の子からの声掛けにより徐々に発声することができてきたというプラス面が見られた。一方で教室全体が騒がしくなる一面もあり常に検証が必要である。

② Tabunka Juku “Animo”（たぶんかじゅく「アニモ」）

目的：外国につながる中学生・ダイレクト受験生（母国で9年間以上の学習を修めた後来日し、高校受験を希望する生徒）等の居場所と学習支援を行い高校進学へのサポートを行う。

実態：毎週月曜日 17：30～19：00 迄学習、終わりの会、支援者ミーティングを行った。



↑ 学習風景

ダイレクト受験生は木曜・金曜の10：00～12：00 迄補足学習をした。

121 回実施、のべ 543 名の生徒が参加。登録数 21 名。支援者 12 名のべ 372 名参加。

生徒のルーツはペルー、フィリピン、ネパール、ベトナム、中国であり、日本で生まれた子、来日したばかりの子、ダイレクト受験生、であった。特に年度後半の受験に近い時期になってからの生徒増、なかでもダイレクト受験生の増加が特徴的であった。

高校受験においては、2025 年 2 月公立高校日本語指導が必要な

生徒・外国人生徒選抜、私立高校併願、2025 年 3 月公立高校一般選抜にチャレンジし、受験生 12 名が全員合格できた。

ダイレクト受験生については、事前情報を基に、より高い学力を得ようとする「教育移民」的な中国人受験生、日本で数年生活した保護者からの呼び寄せによるネパール人の「生活移民」的な受験生という傾向が見られた。また、家庭の事情で年度途中で母国に帰国していく生徒が中学校在籍生、ダイレクト受験生どちらにも見られた。

学習支援の場所としては、定例の出来島ゆうせい薬局に加え、区役所と西淀川・淀川健康友の会の 2 か所の協力が得られた。

区役所については、昨年度に引き続き、共創事業～にしょどグッドスタート for ハイスクール～Nishiyodo Good Start for high school～として定着してきた。

<https://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/page/0000600485.html>

また西淀川・淀川健康友の会からも毎週手厚い対応が得られた。

ダイレクト受験生については、日本語・教科指導以外に、入試までの諸手続き支援が欠かせない。日本語教材については、TABUNKA SHINGAKU JUKU（たぶんかじゅくの前身 2013 年～）の開発教材、「半年で学ぶ日本語学習教材『JAPANESE』」を使用し、日本語教師有資格者を中心に対応した。

12 名の支援者は、大学院生、日本語教師、語学教師、元中学校・高校教員、個人塾講師、ライター、等々指導経験豊かな面々であり、毎回のシフトに沿って持ち味を活かして生徒に

寄り添い熱心なサポートがなされた。

前年度から継続参加のインターン生、大阪大学からのフィールドワーク生、どちらも中国出身であり、中国からの生徒に良い刺激となり母語支援の得られる貴重な場であった。

学習支援記録のアプリ利用により支援内容と対応の方向性への共有が得られた。年2回は生徒の学習は休みとし、支援者ミーティングを行い、課題共有と支援内容の深化をめざしたのも例年通りであった。

参考：たぶんかじゅくの経緯

2015年、「きらきら」活動開始。当時の子どもたちの保護者からの強い要望で、2017年9月から（特活）多文化共生センター大阪（当時）が「たぶんかじゅく Huku」を実施。保護者の熱意と協力で支えられブラジルレストラン（当時）を借用し、ブラジル・ペルー・ルーツの中1・中2、計4名から開講。2018年4月以降、毎週月曜日 Tabunka Juku “Animo”（たぶんかじゅく「アニモ」）として、外国につながる子どもの高校進学を応援する活動を継続中。

（２）「たぶんか相談会」

① 定例相談会

- ・相談件数：70件
- ・実施時期と場所：毎週月曜日 15:00～16:00 ゆうせいホール
- ・実施対象：きらきら、アニモの保護者中心、一部保護者からの紹介者も含む
- ・担当者：地域に在住のスペイン語・ポルトガル語話者、NIC スタッフ
- ・対応言語：ポルトガル語・スペイン語・日本語

きらきら、たぶんかじゅくアニモの保護者を主な対象として、子どもの進路・進学、学習理解についての相談を受けた。子どもの友達とのトラブル、保護者の職場関係の書類、入退院、日本語習得について、等の相談が見られた。

相談者が月曜の午後來室することは仕事や家庭事情により無理な場合も多く、地域のキーパーソンの方が病院への引率をしながら受けている相談が多くあり、個人への負担など課題が残っている。

② 特別相談会「たぶんか高校進学セミナー2024」

- ・目的：外国につながる子どもの高校進学支援。地域の多文化共生の取り組みとし、誰もが差別されず、のびやかに暮らしていける社会作りの一助とする。（実行委員会規約）
- ・参加者数合計：98名
生徒・保護者・引率…52名 申込27家族、当日参加24家族
先輩・通訳・支援者…46名
- ・実施日：2024年7月28日（日）13:30～16:30
- ・会場：大阪市西淀川区役所 5階大会議室
- ・参加費：無料



セミナーの様子↑

- ・参加した子どものルーツ：ネパール、中国、フィリピン、ベトナム、ブラジル、日本
- ・主催：たぶんか高校進学セミナー2024 実行委員会

大阪市立淀中学校、西淀川区役所、淀中学校区学校元気アップ協議会

大阪市教育委員会人権・国際理解教育 G 第一共生支援拠点「らんまん」

西淀川インターナショナルコミュニティ（事務局）

実行委員会主催 4 年目であった。区役所・学校・民間ボランティア団体等との協働体制を継続しながら情報が必要な外国につながる子どもと家族に対応した。毎年、開催の意義を共有する支援者により運営がなされている。

アンケートからは、情報源は学校と答えたケースが多くあり、学校との連携が増したと考えられる。約 4 割弱の西淀川区からの参加であり、他他区からの参加が見られた。日本生まれの子の参加や相談があり、当初の目的を果たしてきている。今後も継続して保護者への情報提供をしていきたい。今回の特徴の一つとして先輩当事者からの発信に続き府立布施北高校（公立）・白頭学院建国高校（私立）からの高校紹介を加え内容充実を図ったことも挙げられる。

特別相談会のうち、健康相談会、法律相談会は開催せず。

（３）地域の交流行事

11 月 3 日に西淀川区役所、出来島商店会協力による「きらきら♥フェスティバル」が開催され、NIC も参加協力した。

3. その他

（１）主なイベント

- ・きらきら年度末お祝い会 26 名参加

3 月 24 日に、子ども・子育てプラザの協力を得てきらきらとしては 2018 年以降では初めての学習以外の取り組みの試みとなった。子どもたちはいくつかのゲームを楽しみ、子ども・子育てプラザ、出来島商店会、きらきら間での交流ができた。

- ・たぶんかじゅくアニモ進級進学お祝い会 21 名参加

3 月 24 それぞれの出身国の文化紹介やこれからについてのメッセージを日本語で行うなどの交流をした。たぶんかじゅくアニモの生徒たち、出来島商店会、支援者の交流が得られた。

（２）主な見学者

大阪市教育委員会、第二共生支援拠点「かけはし」、第三共生支援拠点「きらめき」

大阪大学合同授業フィールドワーク生、川北放課後児童会、西淀川区社会福祉協議会、

吹田市国際交流協会、民生委員協議会、国立社会保障・人口問題研究所は川夕様など

（３）講演

11 月 9 日「外国にルーツを持つ子どもたちの地域での状況」、大阪大学外国語学

部・人文学研究科(外国学専攻)授業、大阪大学にて(坪内)

(4) 投稿等

- ・移住者と連帯する全国ネットワーク・機関誌「Migrants Network」236号に投稿「外国につながる親子と歩む西淀川インターナショナルコミュニティ」(坪内)
- ・掲載
大阪市女性活躍推進「チャレンジの先輩に聞く！活動始めるヒント Vol.56 “外国にルーツを持つ子どもたち”と多様性豊かな社会へ！」クレオ大阪女性チャレンジニュースに掲載された。(坪内)

https://creo-osaka.or.jp/rene/pdf/media/danjo_ikiiki/rolemodel56.pdf

(5) 助成金・寄付

- ・助成金：令和6年度大阪市ボランティア活動振興基金助成金、大阪市こどもの見守り強化事業補助金、大阪市習い事・塾代助成事業、令和6年度善意銀行「子ども・子育て支援のための基金」、令和6年度「地域社会活動等支援奨励事業」に係る奨励金
- ・寄付：赤い羽根共同募金助成様、出来島商店会様、近藤美都志様 他

(6) 主な連携

西淀川区役所、淀中学校、淀中学校区学校元気アップ協議会、西淀川社会福祉協議会、西淀川区子ども・子育てプラザ、大阪市教育委員会人権・国際理解教育、大阪市第一共生支援拠点「らんまん」、地域こども支援ネットワーク、西淀川こどもネット、健康友の会柏里、ゆうせい薬局、Minami こども教室（監事坪内）、子どもの夢応援ネットワーク※

※こどもの夢応援ネットワークとは→2016年～「マイノリティ性をもつ子ども・若者の教育や就労を支援する人たちのネットワークづくり」を目的に、地域で活動している団体、個人が集まって結成。それぞれの団体や個人が単独では進められないことや難しいことも、少しずつ課題解決に挑戦している。

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/kodomonoyume.ouen.nw/>

西淀川インターナショナルコミュニティ (NIC)

代表：中村満寿央 副代表：坪内好子

運営委員：内田比佐夫 近藤美都志 重安義行 竹内千津子

アドバイザー：伊藤セリア 小西 明 鈴木暁子 松元ロサリオ 西田好光

ビーナ シュレスタ ファティマ リラーナ 山崎一人 (50音順)

本部：大阪市西淀川区福町2丁目3-35 サリサリストア内

事務局：〒532-0011 大阪市淀川区西中島6-3-24 北白石ビル西館4F

一般財団法人ダイバーシティ研究所内西淀川インターナショナルコミュニティ

TEL：06-6152-5175 URL：<https://nishiyodoic.net> Email：nishiyc@gmail.com

2024年度活動報告書

2025年6月発行